

普及啓発用冊子の作成について

平成 21 年 3 月 26 日の第 12 回「災害教訓の継承に関する専門調査会」において、災害教訓に関するこれまでの取りまとめの成果を広く国民に普及させる方策について検討するための分科会を設置することが了承された。これを受けて、「災害教訓の普及方策に関する検討分科会」を設置し、これまでの専門調査会における検討の成果を、一般国民にとって分かりやすいものとし、防災意識の向上に結びつけることを目的に、普及啓発用冊子の作成を行ってきた。

【災害教訓の普及方策に関する検討分科会】

委員：〔研究者〕

- ◎伊藤和明防災情報機構会長（本分科会での火山分野を担当）
- 首藤伸夫東北大学名誉教授（本分科会での地震・津波分野を担当）
- 寒川旭（独）産業技術総合研究所招聘研究員（本分科会での地震・津波分野を担当）
- 安田孝志岐阜大学副学長（本分科会での風水害分野を担当）
- 武村雅之鹿島建設株式会社小堀研究室副所長（本分科会での地震・津波分野を担当）
- 北原糸子神奈川大学非文字資料研究センター分析員

〔ユーザーサイド〕…寺本潔玉川大学教育学部教授、池上三喜子(財)市民防災研究所理事

〔マスメディア〕…山口勝 NHK アナウンサー

〔オブザーバー〕…内閣府災害予防担当参事官、文部科学省

【海溝型地震・津波 編】

取りまとめ担当：首藤伸夫 東北大学名誉教授（専門調査会委員）、武村 雅之（株）鹿島建設小堀研究所副所長（専門調査会委員）

- 安政東海地震・安政南海地震
- 明治三陸地震津波
- 関東大震災(1～3 編)
- 1944 東南海地震
- チリ地震津波
(計5災害・報告書 6.5 冊)
〔1災害当たり8頁程度〕

【内陸直下型地震 編】

取りまとめ担当：寒川旭（独）産業技術総合研究所招聘研究員（専門調査会委員）

- 寛文近江・若狭地震
- 安政江戸地震
- 濃尾地震
- 善光寺地震
- 1945 三河地震
- 飛越地震
- (福井地震)
(計7災害・報告書 6.5 冊)
〔1災害当たり8頁程度〕

【火山 編】

取りまとめ担当：伊藤和明 防災情報機構会長（専門調査会座長）

- 富士山宝永噴火
- 天明浅間山噴火
- 磐梯山噴火
- 雲仙普賢岳噴火
- 十勝岳噴火
- (桜島噴火)
(計6災害・報告書 6 冊)
〔1災害当たり8頁程度〕

【風水害・火災 編】

取りまとめ担当：安田孝志 岐阜大学副学長（伊勢湾台風主査）

- 長崎豪雨災害
- エルトゥールル号
- 伊勢湾台風
- カスリーン台風
- 明暦江戸大火
- 酒田大火
(計6災害・報告書 6 冊)
〔1災害当たり8頁程度〕

■各編の構成

各編の構成については、これまでまとめた報告書の教訓の「要約版」とその編のまとめを掲載。各報告書の「要約版」は、当時担当した各主査等が執筆し、まとめは、各編の取りまとめ担当者が執筆。

■作業スケジュール

平成 22 年 2 月 8 日 「第 1 回分科会開催」・今後の作成方針について検討

平成 22 年 2 月～ 火山編を先行して作業

平成 22 年 7 月 14 日 「第 2 回分科会開催」・火山編について検討

現在 海溝型地震・津波編、内陸直下型地震編、風水害・火災編を作業中

平成 22 年中に全編を取りまとめ、普及方策を検討し、12 月（予定）の最後の専門調査会に報告。